

# 一 般 外 科

科目責任者 小 嶋 一 幸  
学年・学期 3 学年・1 学期

## I. 前 文

外科学は各臓器に発生する疾患に対し手術を主体とし、さらに化学療法、放射線療法を組み合わせた集学的治療に取り組む治療学である。特に近年の外科学の進歩は目覚ましく、細分化され、高度な技能と知識が要求されている。各臓器に発生した疾患を治すには、その臓器の形態や機能を把握したうえで、その疾患の病因・病態を理解し、どのような外科的治療が最適か、さらにどのように化学療法、放射線療法を組み合わせていかななくてはならないか判断が要求される。すなわち、外科学には幅広い知識に基づいた総合的治療体系の理解が必要となる。

学生諸君にはこれから外科学を学ぶにあたり、総合的知識の習得を目指した勉強をしてもらいたい。一般外科学では各論に入る前の基本的な事項を取り扱っている。これらの知識は救急を含む日常臨床に役立つものであり、各臓器別に疾患と治療を学ぶ上で不可欠のものである。一般外科でしか、学ぶことがない疾患も多く含まれているので十分理解・習得してもらいたい。

## II. 担当教員

上部消化管外科学	(中 島 政 信)
上部消化管外科学	(森 田 信 司)
外科学 (肝・胆・膵)	(青 木 琢)
外科学 (肝・胆・膵)	(石 塚 満)
外科学 (肝・胆・膵)	(森 昭 三)
乳腺センター	(角 田 美也子)
病理診断学	(石 田 和 之) (病理学各論 I 科目責任者)

## III. 一般学習目標

近代外科学の発展に寄与した人物の功績、外科代謝と栄養管理、生体反応、基本的手術手技、各種疾患に対する診断と治療等を学び、日常臨床に必要な基本的知識の習得を目標とする。

## IV. 学修の到達目標

- 1) 近代外科学の進歩に貢献した人物の功績を理解し、新たな方向性を考える能力を身につける。
- 2) 外科の代謝と栄養管理、滅菌法、消毒法、基本的手術手技について学ぶ。
- 3) 各種病態における手術侵襲に対する生体反応と周術期管理について学ぶ。
- 4) 乳腺疾患、急性腹症など各種外科疾患の診断と治療について学ぶ。
- 5) 臓器移植の基本的理解とその現状について学ぶ。

## V. 授業計画及び方法 \* ( ) 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1 : 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。)  
2 : ディスカッション, デイバート 3 : グループワーク 4 : 実習, フィールドワーク 5 : プレゼンテーション  
6 : その他)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブラーニング
1	5	19	金	2	近代外科学の発展・臓器移植	外科学 (肝・胆・膵) 青 木 琢	1

回数	月	日	曜日	時限	講義テーマ	担当者	アクティブ ラーニング
2	5	24	水	4	乳腺疾患の診断と治療	乳腺センター 角田美也子	1
3		26	金	1	炎症・外傷・熱傷の診断と治療	外科学(肝・胆・膵) 石塚満	1
4		29	月	2	急性腹症の診断と治療	上部消化管外科学 中島政信	1
5		29	月	3	基本的な外科手術手技, 滅菌法と消毒法, 内視鏡外科手術	上部消化管外科学 森田信司	1
6	6	19	月	6	成人, 高齢者の外科代謝と栄養管理	外科学(肝・胆・膵) 森昭三	1
各1	7	22	木	1	乳腺疾患の病理	病理診断学 石田和之	1

注) 上表のうち、左端の「各1」と表示されたコマは、別科目「病理学各論Ⅰ」の授業であるが、科目構成上「一般外科」の授業とともに表記されている。

#### Ⅵ. 評価基準 (成績評価の方法・基準)

試験 (出席状況および講義出席回数も考慮する。)

#### Ⅶ. 教科書・参考書・AV資料

教科書は指定しない。

参考書：標準外科学 (第15版) 医学書院

新臨床外科学 (第4版) 医学書院

#### Ⅷ. 質問への対応方法

- 1) 随時、受け付ける。ただし、事前に秘書を通じアポイントをとること。
- 2) 原則として、試験日の1週間前からは受け付けない。

## IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

\*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	○
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	◎
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	◎
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料，情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	○
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	

## X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験の結果を講評・解説します。

## XI. 求められる事前学習，事後学習およびそれに必要な時間

シラバス別冊に記載あり。なお，シラバス別冊に記載が無い場合，要点を確認しておくこと。（所要時間の目安20分）

## XII. コアカリ記号・番号

シラバス別冊に記載あり。